

20018WCスペイン大会 (GM) 記録

○ 予選リーグ

Aプール ・日本 ・オランダ ・フランス ・ウェールズ ・イタリア

Bプール ・オーストラリア ・アメリカ ・カナダ ・スコットランド ・南アフリカ

Cプール ・ドイツ ・アイルランド ・スペイン ・シンガポール

Dプール ・イギリス ・ベルギー ・アルゼンチン ・ニュージーランド

予選リーグ

6月21日 対 イタリア 9:15 ピッチ2 晴れ

イタリアのセンターパスにより試合開始された。大会初戦となる大切な試合である。1Qより日本ペースで試合は進み再三ゴール前まで攻め込むが得点には至らない。逆に13分イタリアに攻め込まれシュートされるがゴール左にはずれ得点を与えない。2Qに入っても日本ペースで試合は展開、25分松尾からのFHをゴール前の石川がタッチシュートを決め先取点を上げる。更に攻撃をするが追加点を挙げる事が出来ず前半を1-0で終了する。後半に入っても日本ペースで試合が進む。45分左からドリブルで持ち込み相手のインターフェアーからPSを得る。本村が左上にきっちり決め2-0とする。逆に48分インターフェアーによりPSを与えてしまうがGK濱岡のファインセーブで得点を許さない。4Qに入りお互い走力が落ち一進一退の展開が進む。65分DFの反則により再びPSを与えてしまう。相手が枠をとらえることが出来ず得点とはならない。そのまま2-0で試合終了。大切な初戦白星スタートである。

日 本	2	<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 2px 5px;">0-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">1-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">1-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">0-0</td></tr> </table>	0-0	1-0	1-0	0-0	0	イ タ リ ア
0-0								
1-0								
1-0								
0-0								

6月22日 対 フランス 13:00 ピッチ3 晴れ

立ち上がりより日本は右にボールを廻しながらサークルに入ろうと試みる。フランスも右から、左からとパスを廻し組み立てて来るもDFが良く守る。互いにPC等でチャンスを作るも決定打が出ない。26分日本がPCからリバウンドを石川が押し込み待望の先取点を取る。前半タイムアップ寸前に日本がPCから本村がワントラップシュートを決め2-0と突き離し前半を終了。後半に入ってもシーソーゲームが続き両チームチャンスをものできず得点に至らない。そんな中日本チームにアクシデントが起こりイエローカードも出て9名対11名で5分間試合することになるがDFの頑張りで0点におさえ2-0で2戦目も勝利を修める。

日 本	2	<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 2px 5px;">0-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">2-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">0-0</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">0-0</td></tr> </table>	0-0	2-0	0-0	0-0	0	フ ラ ンス
0-0								
2-0								
0-0								
0-0								

6月25日 対 オランダ 9:00 ピッチ4 晴れ

試合開始からオランダのパス廻し、スピードに圧倒され一方的な攻撃で日本は防戦一方である。日本も何とか攻撃を試みるが相手のサークル内に持ち込むことすらできない。1Q、13分PC、16分FG、17分FGで3点、2Q、28分FG、31分PC、34分FG、3点と前半で6点のビハインドとなる。後半に入ってもオランダのスピードは衰えず防戦一方が続く。日本も何とか攻撃を試みるがサークル内に持ち込むことさえできない。3Q、44分PSで1点、4Q、52分FCで1点を追加され0-8で完

敗、オランダの強さを改めて見せつけられた試合であった。

日本 0 $\left[\begin{array}{c} 0-3 \\ 0-3 \\ 0-1 \\ 0-1 \end{array} \right]$ 8 オランダ

6月26日 対 ウェールズ 16:00 ピッチ1 晴れ

予選リーグ最終戦で勝利しなければ決勝トーナメントに進めない大切な試合である。しかし、スタートからウェールズのペースで試合は展開する。日本は縦パス(カウンター)で攻撃するがなかなかトップにつながらない。1Qはウェールズのスピードある攻撃に再三攻め込まれるがGK濱岡もファインセーブに助けられ無得点のまま1Qを終了する。2Qに入り22分右からドリブル突破され鮮やかにシュートされ先制点を与えてしまう。前半何とか1-0で終了。後半に入ってもウェールズのパス回しが早くなかなかボールを奪う事が出来ない。42分PCからのリバウンドを決められ2点目を失う。4Qに入ってもウェールズのスピードは衰えず日本は攻撃の糸口すらつかめない。試合終了間際PCを与えGKのリバウンドをシュートされ3点目を与え、そのまま3-0で敗退。予選リーグ2勝2敗3位で決勝トーナメントに進む事が出来なかった。

日本 0 $\left[\begin{array}{c} 0-0 \\ 0-1 \\ 0-1 \\ 0-1 \end{array} \right]$ 3 ウェールズ

《予選リーグ表》

	日本	ウェールズ	フランス	オランダ	イタリア	
日本		×	○	×	○	3位
		0-3	2-0	0-8	2-0	
ウェールズ	○		○	×	○	2位
	3-0		3-0	0-5	0-1	
フランス	×	×		×	×	5位
	0-2	0-3		0-15	0-3	
オランダ	○	○	○		○	1位
	8-0	5-0	15-0		11-0	
イタリア	×	×	○	×		4位
	0-2	1-0	3-0	0-11		

《9位から16位決定戦》

6月27日 対アルゼンチン 14:30 晴れ ピッチ1

この試合に勝って是非でも9位から12位決定戦に進みたい日本は開始早々から鋭い攻撃で相手陣内に攻め込むがなかなかゴールに結びつかない。13分右からのセンターリングを国廣がゴール前でタッチシュートを決めようやく先制点を上げる。2Qにはいつでも日本ペースで試合展開を進め25分PCからまたもワンタッチで国廣が決め2点目を上げる。前半2-0でリードし終了。後半に入っても日本はアルゼンチンより技術・体力

共に上回り日本ペースでゲーム展開が出来ている。日本は43分右からのセンターリングを石川がタッチシュートで3点目を上げる。47分今度は左からのセンターリングを石樽がタッチシュート4点目を決める。4Qに入ると相手の足が止まりの本の一方的な攻撃となる。5点目はサークルトップからのこぼれ球を本村がループシュートを決める。6点目は右からセンターリングを石川がタッチシュート、7点目は左からサークル内にドリブルで持ち込みシュート成功。終わってみれば7-0の大勝であった。

日本 7 $\left[\begin{array}{c} 1-0 \\ 1-0 \\ 2-0 \\ 3-0 \end{array} \right]$ 0 アルゼンチン

6月29日 対アイルランド 12:30 晴れ ピッチ1

《9位~12位決定戦》

アイルランドに勝ち9位・10位決定戦に駒を進めたい日本であるが開始早々からアイルランドの鋭い攻撃に日本DFも対応するが日本ペースになかなか持っていけない。アイルランドは24分、早いパス廻しから鋭いシュートで先制点を与えてしまう。30分PCより追加点を与えてしまう。その後も相手の攻撃はスピードがあり再三シュートされるがGK濱岡のファインセーブで得点を与えない。前半0-2で折り返す。後半に入っても相手の攻撃は衰えず43分FGにより1点、68分にもFGでダメ押し点を許し0-4で敗退。11位・12位決定戦に回るようになった。

日本 0 $\left[\begin{array}{c} 0-0 \\ 0-2 \\ 0-1 \\ 0-2 \end{array} \right]$ 4 アイルランド

6月30日 (GM) 対南アフリカ 18:00 晴れ ピッチ3

《11位・12位決定戦》

この試合は今大会全試合の最終戦となる試合である。南アフリカはWC常連国であり今後もよきライバル国となる為、是非とも勝って11位を確保することが大切になる。試合開始から日本ペースで試合は進み、5分竹下が右からスピードあるドリブルで持ち込みセンターリングを通すとゴール前で国廣がタッチシュートを決め先制点を上げる。その後はお互い一進一退の攻防が続く。前半1-0で終了する。後半に入っても一進一退の攻防は続く。65分南アフリカはゴール前の混戦からシュート同点ゴールを決められ1-1の同点に追いつかれる。同点のままSOに入るかと思われた終了間際、PCを取り混戦から松尾が左にドリブルしリバースシュート、ゴールが決まり劇的な勝利を上げ11位を決定した。

日本 2 $\left[\begin{array}{c} 1-0 \\ 0-0 \\ 0-0 \\ 1-1 \end{array} \right]$ 1 南アフリカ

反省と課題

○ GMとしてのホッケースタイルとして

- 1、攻撃・・・大会に参加する前（2回の合宿）から、右攻撃でのホッケーの徹底。
（R I、RWにボールを廻し、RWからのCFへの縦パス、センターリングと
いった攻めをあきらめずにやっていき、PCをとる。もしくはシュートまでいくこと）
 - 2、守備・・・3列目、SW、マンツウマンマーク（ひつつきマーク・べたマーク）
- 以上の事を決め事としてGMの選手全員が、意識を持って試合に臨んだ。

総 評

結果、11位に終わりましたが、決して満足はしていませんが、チームから見れば良く頑張ったのではないだろうか？と感じています。何故なら、2本のPSを取られたイタリア戦、PCのリバウンドでの2点のみのフランス戦、接戦でたまたま勝った南アフリカ戦、シーソーゲームでの試合内容、日本が負けていても仕方ない試合ではなかったか？とりわけ、アルゼンチンのチームは、我々よりレベルが低かったと感じています。

日本チームのマイナス面

- ・GM選手の約半数が国際大会の経験がない。（アジアカップは別として）
- ・年齢が高すぎる。（64歳が中心的）
- ・外人選手との駆け引きが出来ない。
- ・相手との間合いがわからない。
- ・レシーブ力が低い。
- ・ストローク力が弱い。
- ・ストロークのコントロールが出来ない。
- ・ポジショニングがわからない。

※ 以上のような事が出来ない中でよく頑張ったと思っている。しかし、もっとホッケーを理解し、チーム全体のフォーメーションがイメージ出来るようにならないと世界には通用しないと考える。